

氏名	萩谷英大
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4915 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Effects of Antibiotics Administration on the Incidence of Wound Infection in Percutaneous Dilatational Tracheostomy (経皮的気管切開後の創感染に及ぼす抗菌薬投与の効果に関する検討)
--------	---

論文審査委員	教授 西崎 和則 教授 氏家 良人 准教授 金廣 有彦
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

経皮的気管切開(PDT)における抗菌薬投与の必要性は未だ解決されていない問題である。我々は津山中央病院で PDT を施行された成人患者を対象に、PDT 周術期の抗菌薬投与が創感染の発症率に及ぼす影響について調査した。297 例の対象例のうち創感染は 7 例(2.36%)で発症した。術後創感染は、周術期に抗菌薬投与を受けなかった患者群(69 例)では 5 例(7.25%)に発症した一方で、抗菌薬投与を受けた患者群(228 例)では 2 例(0.88%)のみであった($P=0.002$, risk ratio 8.82; 95% C.I., 1.67 - 46.6)。7 例の創感染例のうち 5 例は術後 1 週間以内に発症し、その全ての症例が抗菌薬非投与群であった。以上より、本検討では PDT 周術期における抗菌薬投与が術後創感染の発症率を低下させる結果となった。この結果を受けて、今後 PDT 周術期の予防的抗菌薬の必要性について改めて見直す必要がある。

論文審査結果の要旨

本研究は、経皮的気管切開後の創感染に及ぼす抗菌薬投与の効果を投与群と非投与群に分けて後向き研究で検討したものであるが、従来考えられていた説と相違して、抗菌薬の投与が創感染を減少させるという重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。